

2018年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第6号 10月12日発行

三重県立津東高等学校

毎週のように「台風」が日本列島にやってきましたね。旧約聖書には「ルーアッハ」(ヘブル語)は、「霊」(spirit)、「風」(wind)、「息」(breath)と訳されます。もともとの意味は「移動する空気」で、空気が流れ動くことで、そこから自然界で吹き抜ける「風」の意味がもたらされました。一口に「風」といっても、穏やかな「そよ風」、林の木々が揺らぐような「風」は心地いいです。また、船を難破させるような激しい暴風もあります。



ふと宮崎駿監督作品『となりのトトロ』と『風立ちぬ』が浮かんできました。

『となりのトトロ』ではさつきが引っ越してきて、お風呂を沸かす種火の木々を家の前に拾いに出たときです。そのときさつきに向かって一陣の風が舞い上がります。さつきは大きな楠の方を見上げるのです。私はそのシーン「トトロ」が挨拶に来たと思いました。目には見えませんがメイより先にね。「夢だけど夢じゃなかった」このフレーズとともに心に刻まれています。

『風立ちぬ』は 実在の人物である堀越二郎をモデルに、その半生を完全に創作して描いた作品で、堀辰雄の小説『風立ちぬ』からの着想も盛り込まれています。

「不安定な時代を生きた、天才技師である男と病を抱えた女の恋愛物語」ですが、心の中にいろんな風が吹き抜けるのを感じます。ぜひ見て下さい。

堀辰雄さんの「風立ちぬ、いざ生きぬやも。」私には「風が立った、さあ 生きねば」と語ってくれています。

宮沢賢治の作品を載せます。リズムをとりながら声に出してみてください。



風の又三郎

青いくるみも吹きとばせ すっばいかりんも吹きとばせ
どっどど どどうど どどうど どどう 谷川の岸に小さな学校
がありました。教室はたった一つでしたが生徒は三年生が
ないだけで、あとは一年から六年までみんなありました。

運動場もテニスコートのくらいでしたが、すぐうしろは栗(くり)の木のあるきれいな
草の山でしたし、運動場のすみにはごぼごぼつめたい水を噴(ふ)く岩穴もあった
のです。さわやかな九月一日の朝でした。青ぞらで風がどうと鳴り、日光は運動
場いっぱいでした。

○11月 1日(木)は「人権講演会」があります。しっかり思いを受け止めて、
自分のものとして下さい。

